

gコンテンツワールド [午前の部]

(企画実施：NPO法人GIS総合研究所)

GIS総合研究所では、基盤地図情報を広く利用するためには専用のビューワを使うのではなく、インターネットのブラウザだけで見ることができるようになることが最適と考え、利用する技術としてはSVGという形式を取り入れることにした。

そのためにはブラウザで操作できる環境が必要になり、Mozilla Japan瀧田代表やマイクロソフト樋口社長に相談したところ、社会貢献になると考え、積極的に協力する意向を示していただき、G空間EXPO出展、およびシンポジウムの共同開催となった。(GIS総合研究所 川添博史氏)

1. HTML5時代のWeb Mapの提案～SVG Map

WWWは変革期を迎えようとしている。端末のモバイル化・高性能化・マルチメディア化に対応すべく、10年以上凍結されていたWWWの基本規格HTMLがHTML5へ更新される。一方、この間に地図は最も利用されるマルチメディアアプリとなったが、高コストなクラウドの負担が不可欠なものだった。SVG Mapはこの新たな時代に地図をWWWの基本メディアとして容易に利用可能にするものとして、世界に先駆けてその標準化・普及を推進していきたいと考えている。(KDDI(株) 高木悟氏)

2. Internet Explorer9のHTML5対応と地理空間情報の活用

マイクロソフトが次世代ブラウザとして投入するInternet Explorer9において、多くの開発者や企業が興味を示しているHTML5にどのように対応しているのかが示された。また、Internet Explorer9のWindowsプラットフォームとの連携における大きなメリットをHTML5を用いることで、具体的にどのようにユーザーは享受できるのか？について、DEMOを用いて紹介された。(マイクロソフト 五寶匡郎氏)

3. Web業界での標準化がもたらす可能性とその重要性

WebブラウザFirefoxを誕生させたMozilla Projectはなぜ、Webの公共性にこだわり、オープンスタンダードを守り続けるのか？ ネットインフ

ラが整備され、インターネット上で出来ることは技術的にも飛躍的な進化を遂げ、様々な業界での利用の幅は限りなく広がりつつある。いよいよ本格的にWebが人々の生活に溶け込み、情報の共通インフラとなりつつある今、Webの公共性を保つことがいかに重要かについて問いかけられた。(Mozilla Japan 瀧田佐登子氏)

4. 基盤地図情報が開く地理空間情報社会

平成19年に成立した「地理空間情報活用推進基本法」に基づき、国土地理院では基盤地図情報の整備を進めており、平成23年度末には概成する予定である。HTML5ベースのブラウザが普及すれば、地理空間情報の表現力が大幅に向上することが期待できる。国土地理院が最新の基盤地図情報を整備提供し、HTML5により表現能力の大幅向上が実現すれば、地理空間情報の利用が一層進むものと期待される。(国土交通省国土地理院 鎌田高造氏)

5. 地理空間情報社会における地理教育の重要性と地図/GIS

平成19年に地理空間情報活用推進基本法が制定され、地理空間情報が国民の生活に不可欠のものになりつつある。地理空間情報を利活用する能力は、21世紀の生きる力のベースとして、学校教育では、小学校から空間的思考力を育成しなければならないと考える。特に地理教育は、地図/GISの基礎的知識や技能を育成する中心的な科目といえる。地理空間情報社会における学校教育の教育的課題を考えてみたいと思う。(奈良大学 碓井照子氏)

6. 新たな情報通信技術戦略

各省の足並みをそろえるのは内閣官房の役割である。まず、第1段階として、全体の工程表で各省の交通整理をやっている。「ここここは経済産業省、ここは国土交通省と総務省で話し合ってみようね」というような役割分担を(プロジェクトのスタート時に)明確にしたというのが、まず第1段階である。第2段階としては、例えば、国土交通省国土地理院がコード体系の検討会や勉強会をするのであれば、当然関係省庁も呼んでください、ということをお願いをする。実際、内閣官房も勉強会に参加

している。ポイントポイントで我々も自ら足を踏み入れ、進捗状況を確認しつつやっていくという、すごく地道な情報交換、コミュニケーションである。
(内閣府IT参事官 野口聡氏)

日本の精緻な地図（基盤地図情報）は、Web時

代を開くコンテンツとして広く民間に利用されるべき重要な情報であり、インターネットのブラウザのみでの閲覧を進めたいと考えている。(GIS総合研究所 川添博史氏)

(GIS総合研究所理事 国司輝夫)